

豊橋で卓球「サウンドテーブルテニス」の体験教室

ルールや特性学び 練習に汗



S T T の練習に励む参加者（豊橋市障害者福祉会館で）

豊橋市障害者福祉会館さくらピア（東新町）は15日、視覚障害者の卓球競技「サウンドテーブルテニス」（S T T）教室を開いた。視覚障害者とボランティア約20人が参加。S T Tの公認審判員からルールや競技の特性を学びながら汗を流した。

（佐々木雄紫）

同会館は、S T T専用の競技台を所有。約20年間にわたり未使用だったが、昨年からは視覚障害者の利用者が競技台を使った運動を始めた。同年7月には、大会に出場。さらに技術を高めるため、公認審判員の難波昇さん（70）を招いて理解力を深めた。利用者は、S T Tのチーム「鈴虫」を結成。5月末に開かれる障害者スポーツの県大会への出場を目標に練習に励んでいる。メンバーの鈴木結策さん（20）は「大会まで実践形式の練習を行って、腕を磨いていきたい」と意気込む。S T Tは、金属が入ったボールが転がる音を聞いて打ち返し、ネットの下にボールを通す。この日の体験会には、視覚障害者のガイドヘルプを行うボランティア団体「かるがも」のメンバーも参加。審判員として、ルールの宣告の仕方や、競技中には音を立てずに見守ることなどを学んだ。

同会館は、5月6日にも2回目の体験教室を開く。本田栄子事務局長は「視覚障害者のスポーツは難しく大変。これから応援していきたい」と話している。

平成 29 年 4 月 16 日（日）東日新聞

卓球音を頼りにラリー 視覚障害者ら挑む

豊橋で講習



卓球と同じ大きさの台の上で、視覚障害者が音を頼りに転がしたボールを打ち合う「サウンドテーブルテニス（S T T）」の講習会が15日、豊橋市東新町のさくらピア（市障害者福祉会館）であった。名古屋から公認審判員の難波昇さん（70）を招き、プレーする障害者と審判を務めるボランティアの人たちがルールを学んだ。

S T Tは視覚障害者卓球とも呼ばれる。金属球を中

に入れ、転がると音がするピンポン球をラバーを貼っていないラケットで打ち合う。全国障害者スポーツ大会の種目にもなっている。さくらピアの利用者たちが昨年4月にサークルを作った。試合にも参加したが、ルールが難しくいい成績を残せなかった。今後に向け、4、5月に2回の講習を開くことになった。参加者は難波さんからラケットの握り方やサーブの打ち方など初歩から指導を受けた。鈴木結策さん（20）は「正式なルールに沿って実際にやってみることが勉強になった。もちろん、大会にも出てみたいです」と話した。

デジタル版に動画

平成 29 年 4 月 16 日（日）朝日新聞